

夏目漱石第6旧居取得及び活用に関する基本的な方向性

R5.2 文化財課

1. 第6旧居の取得・保存・活用に取り組む理由

- ・熊本の漱石を語る上で、旧居の存在は欠かせない資源。既に第3旧居、第5旧居を所有し一般公開している。
- ・第6旧居は、漱石が住んだ家の中で、その地に現存する2軒のうちの1つ。
- ・当時の柱や梁、欄間などの部材はそのまま現存。特に漱石お気に入りの2階は当時の雰囲気を保っている。
- ・訪れる観光客が絶えず、著名人も訪問し長時間滞在。

文化資源・観光資源として価値が高い

- ・個人所有のまま保存するだけでは価値の継承が難しい。
- ・価値の滅失を防ぐため、稼働資源として3つの旧居を一括所有し連携させた維持活用を行うことで、将来にわたる安定性を確保する。



2. 保存活用方針

- ・文化財的価値を保存するとともに、新たな資源として有効活用を図るため「漱石文化振興活用方針・計画（仮称）」を策定する。
- ・第6旧居に新たな価値を付加し、3つの旧居を連携させた活用を行うとともに、県内に点在する漱石にまつわる文化遺産を活かし、広域的な連携のもとで漱石振興を進める。
- ・計画の策定にあたっては、産学官民の意見を踏まえた合意形成を図る場で協議する。

広域連携	
産	官
学	民

(1) 保存

- ・活用の自由度を確保しつつ、文化財的価値の保存のため、将来的に登録有形文化財を目指す。

(2) 活用

- ・文学や文芸に触れることができる、文化・教育の「知」の拠点とする。
- ・地域に開放し、多くの人が集い、楽しみ、つながり、新たな地域文化やコミュニティが生まれる自由な使い方ができる、地域交流の拠点とする。
- ・旧居が持つ魅力や特性を最大限に生かし、県内に点在する漱石にまつわる遺産の活用を行う。また、国内外への情報発信により来熊観光客やリピーターを増やし、観光・情報発信の拠点とする。

～活用イメージ～

【1階】・・・交流／集いの場

- ・勉強会、（俳）句会
- ・お茶会、カフェ、食事会
- ・映画鑑賞、ミニコンサート
- ・ゲーム大会 など



【2階】・・・漱石を感じる場「金之助ルーム」

- ・2階があるので、この家を借りたいと自ら交渉。この部屋は漱石がいた往時の状況を疑似体験可能な場所。「金之助Room」と命名
- ・作家が長期滞在し作品を書き上げる（アーティストinレジデンス）
- ・紫檀の文机や原稿用紙を用意し当時の空間を演出。本人になったつもりで執筆（短期／短時間貸出）
- ・読書の場 など

3. 今後のスケジュール

令和5年度	土地・建物の取得
令和5～6年度上半期	熊本に遺る夏目漱石文化遺産の保存・利活用方針及び計画の策定
令和6～7年度中	上記に基づき設計及び工事
令和8年度	利活用開始（※令和8年 漱石来熊130年 没後110年）